

新しい会話のカタチ

宮城県仙台第三高等学校 49班

背景・目的：英語教育が進んできたが、外国人とうまく会話ができないことがある。言語力だけではよりよいコミュニケーションをとれないのではないか。ジェスチャーを用いることで英語圏の外国人と円滑なコミュニケーションをしたい。

先行研究

日本人 意識的にコントロールするのが難しい目を見て相手の本心を探る

外国人 感情をストレートに表現するためにコントロールが容易な口を使う

↓
<仮説①> 日本人は目に注目し、外国人は口に注目する

<検証方法>

先行研究から、日本人と外国人はコミュニケーションをとる際にそれぞれ口や目に注目することがわかった。そこで実際に同じ気持ちを表し、口や目が異なる絵文字を複数用意してそれぞれ台湾人、韓国人、三高生、アメリカ人を比較する。

質問 ①どちらが幸せに見えますか
②どちらが悲しく見えますか
③どちらが驚いているように見えますか

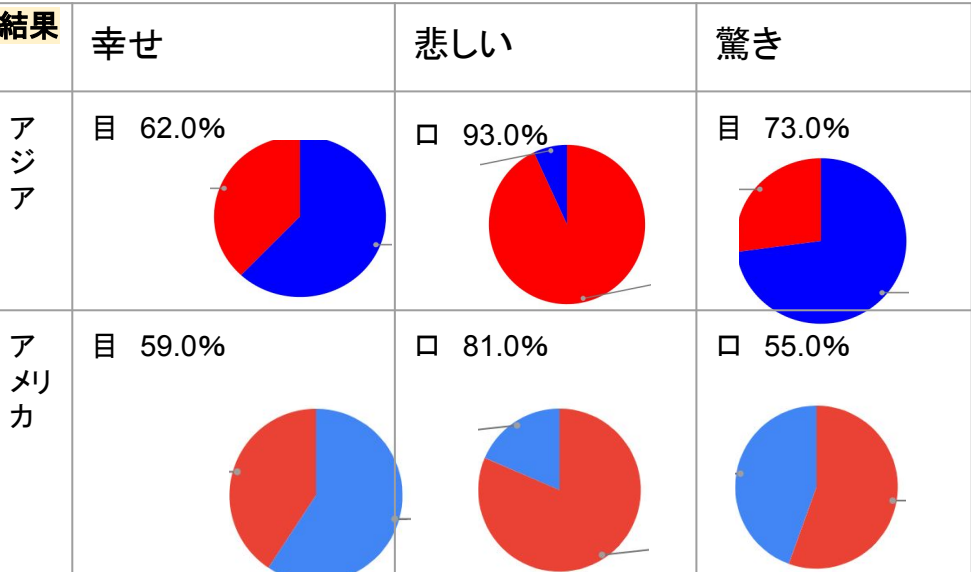
①幸せ

②悲しい

③驚き

口に注目

目に注目



赤: 口に注目した絵文字 青: 目に注目した絵文字 (割合が多い方を表示)

<考察>

日本、韓国、台湾...目と口に注目するという差はない
アメリカ...口に注目する割合がやや多い
アジア圏の地域とアメリカにやや違いが見られるが思っていたほど顕著に結果に差が出なかった
→表情以外にも着目
ジェスチャーについて調べる

<仮説②> アジア地域とアメリカでノンバーバルコミュニケーションの違いがある

企業訪問① 訪問先: MIA(アメリカ人の方と、中国語を教えている方)

目的: 主にジェスチャーについて、日本と他の国ではどのような違いが見られるのか

アメリカ人

・ピースを曲げる動き
→他人の発言を馬鹿にする(" ")

・「おいで」のジェスチャー
→あっちいけ

・サングラス...欧米人は目が弱い

中国人

・食べ物は少し残す
→全部食べると物足りてないのかの思われる

・地域ごとの方言が強く、同じ中国人でも理解できないことがある

○共通点として、アメリカ人と中国人は日本人と比べて思っていることが表情に出やすい

企業訪問② 大阪国際大学 リオン・アブラム准教授

ジェスチャーはコミュニケーションにおいて効果的か

例 ・日本は謝罪でお辞儀をするがアメリカでは言葉で表す
・共感するとき日本は「へえ～」アメリカではうなづく

→国ごとにジェスチャーが違うから難しい

相手に合わせることも必要だが、日本特有のジェスチャーを知っておくことが大切

・アメリカでは怒りは直、申し訳無さは返

→伝えたいことは直接伝わるように表に出す

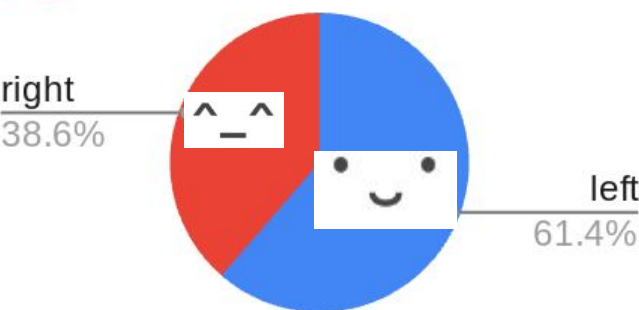
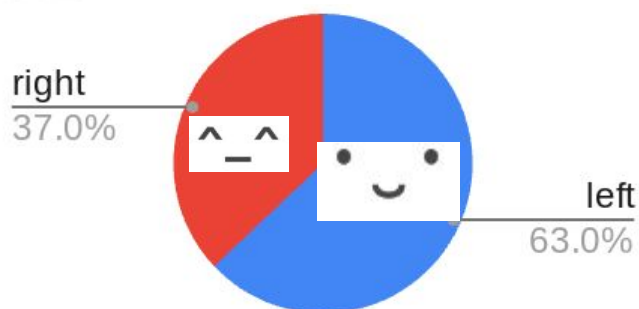
まとめ・結論

外国人とのコミュニケーションにおいて誤解を減らし、より円滑なコミュニケーションを行うためには言語力だけでなくジェスチャーや身振り、手振りを行うことで自分の気持ちを伝えやすくなると分かった。しかし、ジェスチャーには全世界共通のものもある一方で、日本独自のものや外国独自のものもあることを学び、ジェスチャーで気持ちを伝えるには日本独自のジェスチャーについて知ること大切であると学んだ。これらのことから、海外旅行に行く日本人や、外国の人と会話を取る人にはジェスチャーの特性を伝えたり作成したチラシを配ったりして外国の人と円滑なコミュニケーションを取れるように協力したい。

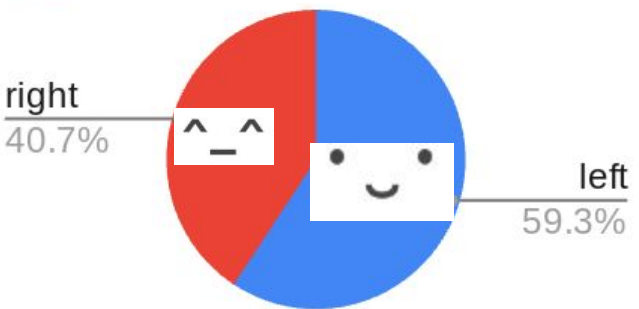
参考文献

- 1)【日本人は目、欧米人は口】https://www.ngu.jp/media/180418_Chukei_Opinion_Assoc.-Prof.Shibasaki.pdf
- 2)【日本対米国人コミュニケーション】日米対人コミュニケーション比較 - リポジトリ ASKA-RASKA-R<https://aska-r.repo.nii.ac.jp/record/files/00..>
調査した高校: Nipmuc High School(アメリカ)、ミンダオ高校(台湾)、チョンリョル高校(韓国)
- 3)公益財団法人 宮城県国際化協会(MIA)
大阪国際大学観光学科

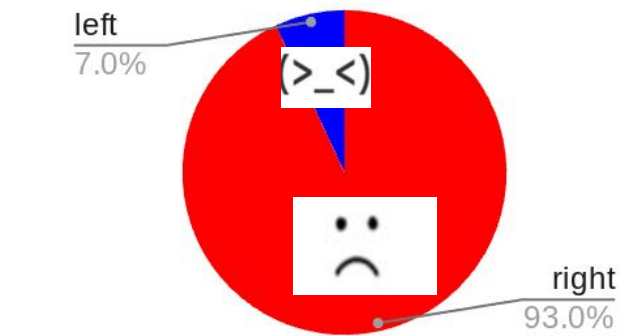
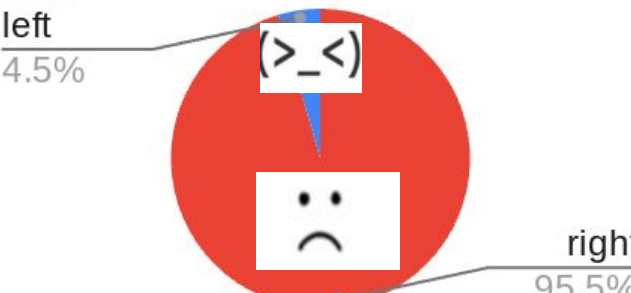
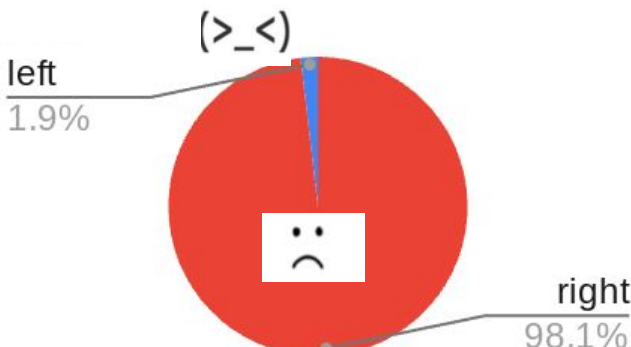
①幸せ



三高生



②悲しい



③驚き

